

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Japan Environment and Children's Study:backgrounds, activities, and future direction in global perspectives

和文タイトル: エコチル調査における国際連携: 背景、活動と今後について

ユニットセンター(UC)等名: 愛知UC
サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Environmental Health and Preventive Medicine

年: 2017 月: 7 巻: 22 頁: 61

筆頭著者名: 石塚一枝
所属UC名: メディカルサポートセンター

目的: 環境因子が子どもの健康と発達に与える影響は国際的に重要な課題である。1997年G8環境大臣会合でのマイアミ宣言を受けて、2010年に日本でのエコチル調査がスタートした。この論文では、エコチル調査の国際連携調査委員会の活動を紹介する。

方法: 環境省は国際連携調査委員会を発足させ、国際的な情報収集、情報発信に努めるとともに、ドイツ、フランス、米国、中国(上海)、WHOその他各国の環境保健の調査チームとエコチル調査との連携をすすめている。

結果: 国際連携調査委員会の活動の1つとして、2011年から2015年の間で、4つのエコチル調査国際シンポジウムを開催した。以後定期的に国際シンポジウムを行い、2015年には、国際アドバイザリーボードが開催された。また、エコチル調査が参加している「環境と子どもの健康に関する出生コホート国際作業グループ(ECHIBCG)」会合では、将来の調査チーム間の研究結果の比較やデータ統合の可能性に向けて、環境曝露やアウトカムの測定方法について話合っている。

考察:(研究の限界を含める) 本論文は、これまでエコチル調査が行ってきた国際連携の活動についての活動報告である。著者らによるまとめであり、環境省の国際連携の見解について述べるものではない。

結論: エコチル調査は環境保健の研究の進展や環境政策立案に国際的に貢献し、国際連携により環境の健康への影響がより明らかになることが期待される。